

ピースパック ガールスカウト日本連盟による プロジェクト

Peace Pack



©Hironobu Kubota



©Hironobu Kubota

ピースパックはガールスカウトの子どもたちが、鉛筆や消しゴム、ノートなどの文房具や日用品を集め、手紙を添えて袋に詰めたものを難民の子どもたちに届けるというプロジェクトです。1994年から2003年までの10年間、パキスタンのアフガン難民の子どもたちにピースパックを届けてきました。今年、その第2弾として2008年3月までの予定でタイのミャンマー難民の子どもたちにも贈られることになりました。2006年3月11日から17日に派遣団が2つのキャンプを訪れ、ピースパック約1万7,000袋と靴8,300足を難民の子どもたちに手渡しました。

ガールスカウト派遣団員からのメッセージ

山口県第三団
藤井明子

派遣前の事前研修会でこれから行く難民キャンプは、

- 難民がキャンプから300m以上離れることが許されない
- 長期化する難民生活の中、自分たちの将来に希望が持たず、圧迫感に満ちている
- 子どもたちに笑顔が少ない

と聞きました。そこで派遣団は自分たちで何が出来るか考え、「夢いっぱい未来に向かって～みんなが笑顔になるために～」というコンセプトを決めました。

実際にキャンプに行き、難民の子どもたち一人ひとりにピースパックを渡すと、はにかんだ笑顔で受け取ってくれました。握手を求め、「テーブル」「アリガト」と、ぎゅっとピースパックを抱えている姿が印象的でした。子どもたちはピースパックの中から、真っ先に手紙を取り出し、嬉しそうに読んでいました。年少の子に英語を訳してあげたり、お母さんや弟妹に読んであげる子どもたちの姿から、彼らはピースパックに込められた心を喜んでいるのだ、ということが強く感じられました。難民キャンプで育ち、離れることが出来ない子どもたちにとって、遠い日本の子どもたちが自分のことを思って手紙を書いてくれたことや、外の世界とピースパックでつながっていることが嬉しい、そのように感じ

ているように見えました。

子どもたちが喜ぶ姿を見て、私は自分の団のピースパック作りをふりかえりました。スカウトもリーダーも、協力して下さった多くの方も、これまでの10年間のピースバックプロジェクトを通じて、多くのことを得ていると思います。ピースバックを作る過程で、平和や難民問題について、子どもたちが考えられるよう指導していただきたいと思っています。

ピースバックを喜ぶたくさんの子どもたちのため、そして日本の子どもたちの豊かな心の成長のため、心を込めたピースバック作りを共に頑張っていきたいと思います。

(成人のためのガールスカウトマガジン
オレブ No.8 一部転載)

ガールスカウト派遣先からのメッセージ

元UNHCRタイ・メーホンソン事務所勤務
古川敦子

「ピースバックって何?」「どうしてピースバックっていうの?」矢継ぎばやに質問が飛んできた。ガールスカウトがタイの難民キャンプを対象にピースバック・プロジェクトを開始することが決まり、その準備のために難民の代表者を集めて説明会を行なった時のことだ。プロジェクトの趣旨とガールスカウトのキャンプ訪問を伝えた時、彼らは驚きと共に顔をバツと輝かせた。

それから数ヶ月後、全国からスカウト達の想いがつまった沢山のピースバックと共に、派遣員がキャンプに到着した。私でさえびっくりするほどの大観衆を迎えられ始まった4日間の交流。言葉も文化も違い、また紛争の傷跡を負う難民にどうやって自分達の想いを伝えるか、毎日が試行錯誤の繰り返しだった。難民の側でも自分たちの文化を知ってもらおうと、様々な伝統舞踊や音楽を披露してくれた。お互いに、身振り手振りや慣れない英語を駆使して一生懸命コミュニケーションを図ったり、別れを惜しみあう姿を見ていると、日本からの想いがしっかりと難民の心に届いたことを感じずにはいられなかった。

難民の笑顔の裏に隠された気持ちをわかり、彼らの平和への願いを汲み取っていくこと。それがこのプロジェクトに与えられた大切な使命ではないかと思う。